

# していますか？ シックスクール

小樽・子どもの環境を考える親の会

連絡先 0134(25)1182 or(27)5100

e-mail sato-jin@star.odn.ne.jp

No.94 2012年1月

会報は皆さんの会費によって作られています。

郵便振替 02760-4-77134 1100円/年

## 「原発なんかできてみろや。この辺の米さ、みんな放射能にやられつもうでねえか」

新装版『原発に子孫の命は売れない』～原発ができなかった福島浪江町-恩田勝亘/著～には、40数年前の浪江・小高原発計画(東北電力)反対の様子が記されています。「原発なんかできてみろや。この辺の米さ、みんな放射能にやられつもうでねえか」と言った農業舛倉隆さんの、20年にわたる計画反対の闘いは圧巻です。舛倉さんは、中学卒業後から農業一筋に生きてきましたが、「土地は売らない！」と決めてから、仲間と棚塩原発反対同盟を立ち上げ、講演会に参加して原発の勉強を始めました。電力会社の介入に一人二人と仲間が減っていく中、『原発情報』という手作りの新聞を発行したり、手描きの立て看板を設置したりして抵抗します。そんな中、高木仁三郎さんにも出会います。ある日、舛倉さんは庭の“ムラサキツユクサ”の一部がピンク色に変色しているのを見つけ、埼玉大学の市川教授に写真を撮って送ります。この観測結果は、全国紙が大きく取り上げ推進派をやり込めます。しかし、この事実は、福島第一原発から放出される放射能が、棚塩の舛倉さんの家まで到達し、蓄積していることを裏付けることでもありました。

ドイツの調査で、胎児や幼児が放射線に対し、これまで考えられていた以上に大変感受性が強いということがわかっています。原子力発電所周辺に住む幼児たちの癌・白血病の検査でも、ほんの少しの線量増加で、子どもたちの健康にダメージを与えるという結果がでているのです。97年に舛倉さん、00年に高木さんがこの世を去りました。

## 許すな！放射能汚染汚泥・瓦礫のバラマキ

浄化センターの汚泥から2万ベクレル以上の高濃度の放射性物質が検出され、その汚泥がセメント材として栃木県内などに出荷され再利用されていたことが、報道されました。政府は、その後、セメント協会に対して、放射性物質が含まれている脱水汚泥等を安定的に受け入れるよう要請し、国交省の HP(2011, 5)に、「福島県内の下水処理により発生する脱水汚泥を再利用して生産されたセメントによる放射線の影響評価について」を発表。評価は、「放射能濃度が 1000Bq/kg のセメントを使用して製造されたコンクリートの床、壁、天井で囲まれた居住空間における被ばく線量は、0.36mSv/年と評価され、これは平常時に原子力施設が公衆に与える被ばく限度である 1mSv/年を下回るものであり、健康への影響が起こることは考えがたい」というあきれたもの。

放射能が付着した瓦礫を、日本全国の自治体に「受け入れ要請」をすることは、放射能の影響を受けていない地域にまで汚染を広げることになります。このままでは、本当に日本中が放射能汚染し、日本人全員が被ばくしてしまいます。政府は「福島の痛みを日本中で分かち合う」といった誤った考えを押し付け、食品等の放射能の基準値を高く設定したり、食べて応援などのキャンペーンをして、放射能を日本中にばらまいているのです。

## 乳児用粉ミルクからセシウム「不検出」といってもゼロではない

埼玉工場で作られた粉ミルク“明治ステップ”から、最大 30,8Bq のセシウムが検出された問題。子育て中の母親はどんなに怯えたことでしょう。乳児用粉ミルクの国の暫定基準値は、100Bq。明治では、30,8Bq はそれ以下なので「不検出」としていますが、親として納得できるはずありません。明治は、このステップを無償交換すると言っていますが、「あくまで『交換』であって、『回収』ではない。お客様が交換したいと希望するなら交換します」という姿勢だそうです。国が高い暫定基準値を決めれば、このような開き直りともいえる企業が続出します。ちなみに、明治は、11月中旬にこのセシウム混入の情報が3件も寄せられていたのに、約2週間にわたり放置していたこともわかっています。大阪赤十字病院の山本医師によると、アメリカで86年に妊娠中だった人の子どもと、その前後に妊娠中だった人の子どもを比べると乳児白血病の発症率が10%違ったという調査があり、原因を調べていくと、ミルク中のセシウムの量が85年から86年に3倍に増えていたという事実があったそうです。

## 忘れないで！《食べ物に関するまとめ》

消費者としてしっかり押さえておかなければいけないことを『食政策センター・ビジョン 21』の安田節子さんのことばでまとめました。

まず、①「放射性物質を含む食品は、販売してもいけない、食べてもいけないものである」こと。②基準値は事故時でも平常時と同じ数値にして人々の健康を守らなくてはいけないこと。ウクライナやベラルーシでは、日本の基準値の1/10、1/20 の基準値を設置していますが、このような低い基準値を設置した理由は、「健康被害がでた場合には、社会的コストが大きくなる、食品の安全基準地を厳しくして予防的措置をとった方が、最終的に国の負担を抑えることになるから」だそうです。③市場に入る食品は全量検査すること。④責任は東電と政府が負うこと。⑤消費者と生産者が痛み分けするやり方は間違っていること。これらを常に頭に入れて、私たちにできることを行動しましょう。

## 遺伝子組み換えの被害ぞろぞろ・・・

ジェフリースミスによる遺伝子組み換え食品の動物実験の一部を紹介します。

**ロシア**・・・実験に使われた遺伝子組み換え(GM)ポテトは、モンサント社の殺虫性(Bt)ポテト。このポテトを与えられたラットは、臓器や組織に損傷が生じていた。この事実は8年間隠されてきた。

**カナダ**・・・GMトウモロコシを摂取した鶏の死亡率が2倍になり、成長もバラバラという結果がでた。

**ニュージーランド**・・・Bt 綿を運ぶ労働者の肌の色が黒く変色、吹き出物、水泡が生じる。

**インド**・・・Bt 綿を収穫したあとの畑の牧草を食べた山羊や羊が死亡。

**ドイツ**・・・Bt コーン(殺虫性コーン)を食べた12頭の牛が死亡した。

**アメリカ**・・・Bt コーンを食べた豚の繁殖率が激減。また偽装妊娠が起きる。

**フィリピン**・・・Bt コーンを栽培している農場の近くに住む農家の間で発熱・呼吸疾患・皮膚障害が広がっている。

**フランス**・・・モンサントの Bt トウモロコシ、除草剤耐性トウモロコシは、肝臓・腎臓・骨髄に悪影響が見られた。

モンサント社は、農水省に「遺伝子組み換えの種子を輸入しろ」と圧力をかけ、これらの実験で使用されたGM食品は、殆どが日本では食品として承認されているそうです。遺伝子組み換えといえば、去年の9月、アメリカでメルク社の子宮頸がんワクチン・ガーダシルに遺伝子組換えされたHPVウイルスが混入、汚染されていたことがワクチン安全性調査会社であるセイン・バックス社の調査により判明しています。日本でも、7月にガーダシルは厚労省の認可を受けています。

## 食器の鉛が胎児・子どもの脳に影響

プラスチック食器をやめて、陶磁器やガラス製の食器を使えば、安全でしょうか。

鉛やカドミウムは、陶磁器の表面に光沢をだしたり、絵柄を美しくするために使用されています。現在市販されている陶磁器のほとんどに鉛が使われていますが、鉛溶出基準はあまりうえ、メーカーが鉛を使わないようにしようという動きはあまりないようです。大手企業の言い分は、「水道水や空気中の鉛に比べ、食器からの溶出は微量で健康影響はないと厚労省から聞いている。酸性食品により鉛が溶出する危険性を知らせるつもりはない」。

何百年もの歴史を継承してきた技法がある伝統的な焼き物は、容易に鉛の量を減らせないということもあるようです。

輸入食器については、中国産輸入食器が増えている一方、初回のサンプル検査だけで、その後は、検査省略で輸入されているのが現状だそうです。

鉛の血中濃度が高くなると、貧血、頭痛、神経障害、注意欠陥、言語処理問題、発達障害、社会生活不適応、記憶力や集中力の低下など脳への影響があり、思春期からの暴力や犯罪、不登校、引きこもりにつながっていくといえます。

『食器の溶出鉛から子どもの脳を守る会』の平岡宏則氏は、「日本は、鉛の血中濃度検査もなく、鉛曝露の調査官もおらず、食器の鉛を疑う医師も皆無。つまり、日本で被害がでていないのではなく、発見できていないと考えるべき」といい、「発見されずに家庭で使われている危険な食器があることが想像できる」と警鐘を鳴らしています。

海外ではどうでしょう。86年にWHOから鉛曝露量低減の勧告がだされ、欧米の疫学研究では95年頃から極低レベルの鉛曝露でも胎児や乳幼児の脳に影響を及ぼすことが分かってきました。03年には、ニューヨークの1歳児がフランス製の食器で高濃度鉛曝露のデータが公表され、アメリカやカナダでは半身麻痺や死亡例も報告され、食器の鉛には厳しい規制がされるようになりました。しかし、アメリカでは鉛中毒患者が現在も増えているとのことです。食器だけでなく、鉛を含むペンキやガソリンを多く使用していることが原因のひとつと言われています。

では、どうやって胎児や子どもを鉛から守るか。まずは、安全な食器を選ぶこと。例えば、アジア雑貨や海外で購入した物、アンティーク骨董、趣味の陶芸などは注意が必要だといえます。極彩色の食器は避け、使用する場合でも酸の強いものは入れない。使っているうちに、模様や絵が削れてしまったりするようなものは、食器として使わない。ガラス食器の金の縁取りやホウロウ引きでは、釉薬のガラス質や顔料に鉛を含有していることがあるそうです。ガラス類はクリスタルガラスはやめて、ソーダガラスや強化ガラスで、

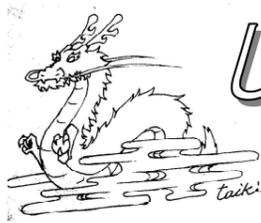
絵付されていないものを選ぶこと。無鉛食器は、例えば、『染付磁器』。陶器ではありません。白い食器でもボンチャイナ製は釉薬に鉛を使うので、無鉛の『白磁』(絵付なし)などを選ぶと良いそうです。また、食器の外側には鉛規制がないので、子どもが舐めたりしないように外側の絵付けにも注意が必要とのこと。酸の強い食品には、ジュースなどもはいつています。



**陶磁器の鉛溶出基準**  
(食器の種類ごとに基準あり。  
09年に一部改正)  
浅型容器では  
日本=16PPM  
アメリカ=3.0PPM  
ヨーロッパ=約8ppm  
厚労省食品安全部基準審査課

**神奈川県保健所による陶器の重金属テストの結果**(1987年)  
検体 50 体(県内陶器店、デパート、スーパーマーケットなどのもの)  
50 検体中、41 体より鉛が検出。  
50 検体中、2 体よりカドミウムが検出。

【参考資料】産経新聞 ロイター通信 明治乳業 HP 消費者レポート1498、1499 Genpa2 News 東京新聞 遺伝子組み換え食品の危険性を示した米国環境医学会報告/天笠啓祐まとめ 社団法人セメント協会 読売新聞 NPO ダイオキシシン・環境ホルモン対策会議ニュースレター71 食器の鉛溶出から子どもの脳を守る会 愛知県衛生研究所 岐阜県セラミックス研究所 G. C. F ニュースNo.29他 もずねこ



# していますか？ シックスクール

小樽・子どもの環境を考える親の会

連絡先 0134(25)1182 or(27)5100

e-mail sato-jin@star.odn.ne.jp

No.94 2012年1月

会報は皆さんの会費によって作られています。

郵便振替 02760-4-77134 1100円/年

## 「原発なんかできてみろや。この辺の米さ、みんな放射能にやられつもうでねえか」

新装版『原発に子孫の命は売れない』～原発ができなかった福島浪江町-恩田勝亘/著～には、40数年前の浪江・小高原発計画(東北電力)反対の様子が記されています。「原発なんかできてみろや。この辺の米さ、みんな放射能にやられつもうでねえか」と言った農業舛倉隆さんの、20年にわたる計画反対の闘いは圧巻です。舛倉さんは、中学卒業後から農業一筋に生きてきましたが、「土地は売らない！」と決めてから、仲間と棚塩原発反対同盟を立ち上げ、講演会に参加して原発の勉強を始めました。電力会社の介入に一人二人と仲間が減っていく中、『原発情報』という手作りの新聞を発行したり、手描きの立て看板を設置したりして抵抗します。そんな中、高木仁三郎さんにも出会います。ある日、舛倉さんは庭の“ムラサキツユクサ”の一部がピンク色に変色しているのを見つけ、埼玉大学の市川教授に写真を撮って送ります。この観測結果は、全国紙が大きく取り上げ推進派をやり込めます。しかし、この事実は、福島第一原発から放出される放射能が、棚塩の舛倉さんの家まで到達し、蓄積していることを裏付けることでもありました。

ドイツの調査で、胎児や幼児が放射線に対し、これまで考えられていた以上に大変感受性が強いということがわかっています。原子力発電所周辺に住む幼児たちの癌・白血病の検査でも、ほんの少しの線量増加で、子どもたちの健康にダメージを与えるという結果がでているのです。97年に舛倉さん、00年に高木さんがこの世を去りました。

## 許すな！放射能汚染汚泥・瓦礫のバラマキ

浄化センターの汚泥から2万ベクレル以上の高濃度の放射性物質が検出され、その汚泥がセメント材として栃木県内などに出荷され再利用されていたことが、報道されました。政府は、その後、セメント協会に対して、放射性物質が含まれている脱水汚泥等を安定的に受け入れるよう要請し、国交省の HP(2011, 5)に、「福島県内の下水処理により発生する脱水汚泥を再利用して生産されたセメントによる放射線の影響評価について」を発表。評価は、「放射能濃度が 1000Bq/kg のセメントを使用して製造されたコンクリートの床、壁、天井で囲まれた居住空間における被ばく線量は、0.36mSv/年と評価され、これは平常時に原子力施設が公衆に与える被ばく限度である 1mSv/年を下回るものであり、健康への影響が起こることは考えがたい」というあきれたもの。

放射能が付着した瓦礫を、日本全国の自治体に「受け入れ要請」をすることは、放射能の影響を受けていない地域にまで汚染を広げることになります。このままでは、本当に日本中が放射能汚染し、日本人全員が被ばくしてしまいます。政府は「福島痛みを日本中で分かち合うといった誤った考えを押し付け、食品等の放射能の基準値を高く設定したり、食べて応援などのキャンペーンをして、放射能を日本中にばらまいているのです。

## 乳児用粉ミルクからセシウム「不検出」といってもゼロではない

埼玉工場で作られた粉ミルク“明治ステップ”から、最大 30,8Bq のセシウムが検出された問題。子育て中の母親はどんなに怯えたことでしょう。乳児用粉ミルクの国の暫定基準値は、100Bq。明治では、30,8Bq はそれ以下なので「不検出」としていますが、親として納得できるはずありません。明治は、このステップを無償交換すると言っていますが、「あくまで『交換』であって、『回収』ではない。お客様が交換したいと希望するなら交換します」という姿勢だそうです。国が高い暫定基準値を決めれば、このような開き直りともいえる企業が続出します。ちなみに、明治は、11月中旬にこのセシウム混入の情報が3件も寄せられていたのに、約2週間にわたり放置していたこともわかっています。大阪赤十字病院の山本医師によると、アメリカで86年に妊娠中だった人の子どもと、その前後に妊娠中だった人の子どもを比べると乳児白血病の発症率が10%違ったという調査があり、原因を調べていくと、ミルク中のセシウムの量が85年から86年に3倍に増えていたという事実があったそうです。

## 忘れないで！《食べ物に関するまとめ》

消費者としてしっかり押さえておかなければいけないことを『食政策センター・ビジョン 21』の安田節子さんのことばでまとめました。

まず、①「放射性物質を含む食品は、販売してもいけない、食べてもいけないものである」こと。②基準値は事故時でも平常時と同じ数値にして人々の健康を守らなくてはいけないこと。ウクライナやベラルーシでは、日本の基準値の1/10、1/20 の基準値を設置していますが、このような低い基準値を設置した理由は、「健康被害がでた場合には、社会的コストが大きくなる、食品の安全基準地を厳しくして予防的措置をとった方が、最終的に国の負担を抑えることになるから」だそうです。③市場に入る食品は全量検査すること。④責任は東電と政府が負うこと。⑤消費者と生産者が痛み分けするやり方は間違っていること。これらを常に頭に入れて、私たちにできることを行動しましょう。

## 遺伝子組み換えの被害ぞろぞろ・・・

ジェフリースミスによる遺伝子組み換え食品の動物実験の一部を紹介します。

**ロシア**・・・実験に使われた遺伝子組み換え(GM)ポテトは、モンサント社の殺虫性(Bt)ポテト。このポテトを与えられたラットは、臓器や組織に損傷が生じていた。この事実は8年間隠されてきた。

**カナダ**・・・GMトウモロコシを摂取した鶏の死亡率が2倍になり、成長もバラバラという結果がでた。

**ニュージーランド**・・・Bt 綿を運ぶ労働者の肌の色が黒く変色、吹き出物、水泡が生じる。

**インド**・・・Bt 綿を収穫したあとの畑の牧草を食べた山羊や羊が死亡。

**ドイツ**・・・Bt コーン(殺虫性コーン)を食べた12頭の牛が死亡した。

**アメリカ**・・・Bt コーンを食べた豚の繁殖率が激減。また偽装妊娠が起きる。

**フィリピン**・・・Bt コーンを栽培している農場の近くに住む農家の間で発熱・呼吸疾患・皮膚障害が広がっている。

**フランス**・・・モンサントの Bt トウモロコシ、除草剤耐性トウモロコシは、肝臓・腎臓・骨髄に悪影響が見られた。

モンサント社は、農水省に「遺伝子組み換えの種子を輸入しろ」と圧力をかけ、これらの実験で使用されたGM食品は、殆どが日本では食品として承認されているそうです。遺伝子組み換えといえば、去年の9月、アメリカでメルク社の子宮頸がんワクチン・ガーダシルに遺伝子組換えされたHPVウイルスが混入、汚染されていたことがワクチン安全性調査会社であるセイン・バックス社の調査により判明しています。日本でも、7月にガーダシルは厚労省の認可を受けています。

## 食器の鉛が胎児・子どもの脳に影響

プラスチック食器をやめて、陶磁器やガラス製の食器を使えば、安全でしょうか。

鉛やカドミウムは、陶磁器の表面に光沢をだしたり、絵柄を美しくするために使用されています。現在市販されている陶磁器のほとんどに鉛が使われていますが、鉛溶出基準はあまりうえ、メーカーが鉛を使わないようにしようという動きはあまりないようです。大手企業の言い分は、「水道水や空気中の鉛に比べ、食器からの溶出は微量で健康影響はないと厚労省から聞いている。酸性食品により鉛が溶出する危険性を知らせるつもりはない」。

何百年もの歴史を継承してきた技法がある伝統的な焼き物は、容易に鉛の量を減らせないということもあるようです。

輸入食器については、中国産輸入食器が増えている一方、初回のサンプル検査だけで、その後は、検査省略で輸入されているのが現状だそうです。

鉛の血中濃度が高くなると、貧血、頭痛、神経障害、注意欠陥、言語処理問題、発達障害、社会生活不適応、記憶力や集中力の低下など脳への影響があり、思春期からの暴力や犯罪、不登校、引きこもりにつながっていくといえます。

『食器の溶出鉛から子どもの脳を守る会』の平岡宏則氏は、「日本は、鉛の血中濃度検査もなく、鉛曝露の調査官もおらず、食器の鉛を疑う医師も皆無。つまり、日本で被害がでていないのではなく、発見できていないと考えるべき」といい、「発見されずに家庭で使われている危険な食器があることが想像できる」と警鐘を鳴らしています。

海外ではどうでしょう。86年にWHOから鉛曝露量低減の勧告がだされ、欧米の疫学研究では95年頃から極低レベルの鉛曝露でも胎児や乳幼児の脳に影響を及ぼすことが分かってきました。03年には、ニューヨークの1歳児がフランス製の食器で高濃度鉛曝露のデータが公表され、アメリカやカナダでは半身麻痺や死亡例も報告され、食器の鉛には厳しい規制がされるようになりました。しかし、アメリカでは鉛中毒患者が現在も増えているとのことです。食器だけでなく、鉛を含むペンキやガソリンを多く使用していることが原因のひとつと言われています。

では、どうやって胎児や子どもを鉛から守るか。まずは、安全な食器を選ぶこと。例えば、アジア雑貨や海外で購入した物、アンティーク骨董、趣味の陶芸などは注意が必要だといえます。極彩色の食器は避け、使用する場合でも酸の強いものは入れない。使っているうちに、模様や絵が削れてしまったりするようなものは、食器として使わない。ガラス食器の金の縁取りやホウロウ引きでは、釉薬のガラス質や顔料に鉛を含有していることがあるそうです。ガラス類はクリスタルガラスはやめて、ソーダガラスや強化ガラスで、

絵付されていないものを選ぶこと。無鉛食器は、例えば、『染付磁器』。陶器ではありません。白い食器でもボンチャイナ製は釉薬に鉛を使うので、無鉛の『白磁』(絵付なし)などを選ぶと良いそうです。また、食器の外側には鉛規制がないので、子どもが舐めたりしないように外側の絵付けにも注意が必要とのこと。酸の強い食品には、ジュースなどもはいつています。



**陶磁器の鉛溶出基準**  
(食器の種類ごとに基準あり。  
09年に一部改正)  
浅型容器では  
日本=16PPM  
アメリカ=3.0PPM  
ヨーロッパ=約8ppm  
厚労省食品安全部基準審査課

**神奈川県保健所による陶器の重金属テストの結果(1987年)**  
検体 50 体(県内陶器店、デパート、スーパーマーケットなどのもの)  
50 検体中、41 体より鉛が検出。  
50 検体中、2 体よりカドミウムが検出。

【参考資料】産経新聞 ロイター通信 明治乳業 HP 消費者レポート1498、1499 Genpa2 News 東京新聞 遺伝子組み換え食品の危険性を示した米国環境医学会報告/天笠啓祐まとめ 社団法人セメント協会 読売新聞 NPO ダイオキシシン・環境ホルモン対策会議ニュースレター71 食器の鉛溶出から子どもの脳を守る会 愛知県衛生研究所 岐阜県セラミックス研究所 G. C. F ニュースNo.29他 もずねこ